

例えばこんな時、ご相談ください

- 利用者から使いづらいといわれて困っており、これまで手直しをしているが効果が出ていない
- 顧客からの要求仕様に“ユーザビリティ”や“アクセシビリティ”という文言があるが、どのように対応したらよいかがわからない
- 使いやすさも見映えも良くして、評判を上げたい
- 操作性をよくして他社より優位に立つための材料にしたい
- 開発の早い段階で画面の完成イメージを関係者で共有して、イメージのブレによる手直しの発生を減らしたい
- ユーザーインターフェースの課題を把握し、改善の要件を明らかにしたい
- 現行システムの操作の問題を把握して、次の提案につなげたい



■ デザインソリューション・メニュー



デザインコンサルティング

専門知識を持ったデザイナーが、ユーザー評価、専門家評価、アンケートなどの調査を通してユーザーインターフェースの課題を明らかにし、解決に向けてどのようにユーザーインターフェースの改善に取り組むべきか、お客さまとともに考えながら明らかにします。



ユーザーインターフェースデザイン

デザインといえばビジュアル(見映え)に目が行きがちですが、ビジュアルが生きるのは、利用者、利用環境、利用目的、開発の諸条件などにあわせて検討された操作手順や画面遷移があってこそです。しっかりとした検討の積み上げを通じて、お客さまの目的に沿い、システムの提供する価値をより多く利用者に届けられるデザインをご提案します。

商標に関する表示

●本カタログに記載されている製品名、商品名、社名は、各社の商標、登録商標です。

※ 本カタログの内容は、2025年6月現在のものです。

※ 製品仕様は改良のため予告なく変更することがあります。ご不明な場合は、当社担当営業にお問い合わせください。

※ 本製品を輸出される場合には、「外貨為替及び外貨貿易法」の規制ならびに米国輸出管理規制など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、ご不明な場合は、当社担当営業にお問い合わせください。

株式会社 日立社会情報サービス

<https://www.hitachi-sis.co.jp/>

ソリューション・製品に関するお問い合わせ

ソリューション・製品サイト

<https://www.hitachi-sis.co.jp/design/>

デザインソリューション

デザインで利用者に届くシステムの価値を高めます



デザインで利用者に届くシステムの価値を高めます

～ユーザーインターフェースのデザイン～

利用者とシステムを結ぶ架け橋がユーザーインターフェースです。

利用者、利用環境、利用目的に合わせて適切にデザインされた、使いやすく・見やすく・わかりやすいユーザーインターフェースは、機能やサービスといったシステムが提供する価値を充分に利用者に届けることができます。ゆえに、ユーザーインターフェースの改善は利用者に届くシステムの価値を高めることにつながります。

また、ユーザーインターフェースを通じて「システムを気持ちよく使えた」という経験は、「好感度」や「また使いたいと思う気持ち」に影響します。これは近年関心を集めているUX(User Experience^{※1})に取り組む上でも大切になります。

ユーザーインターフェースがよくなることで期待される効果

機能やサービスを
充分に利用できるので…

- システム導入の効果をより引き出せる
- サービスの良さが伝わる

操作への問い合わせが
減少するので…

- サポートの負荷が軽減される

利用者の好感度や
満足度の向上によって…

- また利用してもらえる
- ブランドイメージがよくなる



適切にデザインされた
使いやすく・見やすく・わかりやすい
ユーザーインターフェース

必要とされる知識や技術

- ユーザビリティ^{※2}、アクセシビリティ^{※3}に関する専門知識
- 専門知識に裏打ちされた、利用者視点での検討の積み上げ
- 検討結果を開発条件に合う形に“具現化”できるデザインスキル

※1 User Experience

ソフトウェア、Webサイト、サービスなどの利用を通じてユーザーがよい経験ができる。「UX」とも呼ばれる。

※2 ユーザビリティ

ソフトウェアや、Webサイトなどの「使いやすさ」。利用者が不快な思いをせず、効率よく、目的を達成できるようにすること。

※3 アクセシビリティ

ソフトウェアの画面や、Webサイトなどで、年齢や身体障がいの有無に関係なく、だれもが必要とする情報に簡単に辿りつけ、利用できること。



※4 ユーザビリティの専門家

HCD-net(人間中心設計推進機構)認定の人間中心設計専門家、国家検定に合格したウェブデザイン技能士など、ユーザーインターフェースのデザイン、Webデザインに必要な高いスキルを持つ人員が、PC、モバイル機器、ブラウザ利用など様々なタイプのユーザーインターフェースのデザインに多数取り組んでいます。

※5 アクセシビリティの有識者

ウェブアクセシビリティ JIS(JIS X 8341-3:2004,2010,2016)の制定・改正に参画したメンバーが在籍しており、アクセシビリティに関する技術と実績を豊富に有しています。